

黙示録 8 章 4 節-13 節 スタディーガイド

★ 黙示録 8 章 4 節-6 節

香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。それから、御使いは、その香炉を取り、祭壇の火でそれを満たしてから、地に投げつけた。すると、雷鳴と声といわずまと地震が起こった。すると、七つのラッパを持っていた七人の御使いはラッパを吹く用意をした。

4 節「香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。」

5 節「それから、御使いは、その香炉を取り、祭壇の火でそれを満たしてから、地に投げつけた。」

祈りが神様の御前に届くと同時に、御使いが天の祭壇の火を香炉に満たして、地に投げ付けています。神様が地に仇を討っている姿です。

5 節「すると、雷鳴と声といわずまと地震が起こった。」

祈りに応えて、神様の御怒りが地に注がれます。

6 節「七人の御使いはラッパを吹く用意をした。」

封印の災難で人類の 4 分の 1 が死に、いよいよ封印の災難以上にひどいラッパの災難が始まります。

★ 黙示録 8 章 7 節

第一の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、血の混じった雹と火とが現れ、地上に投げられた。そして地上の三分の一が焼け、木の三分の一も焼け、青草が全部焼けてしまった。

血の混じった雹と火とが現れ、地上に投げられた。

大きな雹に、血が混ざっている物が降ってくるのは恐ろしい光景です。それが 1 箇所です。起こっているのではなく、世界規模で起こっているのです。

地上の三分の一が焼け、木の三分の一も焼け

現在、増大する車や工場の数によって二酸化炭素が急速に増え、地球温暖の基となっています。

すが、二酸化炭素は森林の光合成により吸収されます。しかし、地球の3分の1もの木が焼失するなら、それが非常に少なくなります。

青草が全部焼けてしまった。

家畜の食べ物が無くなります。食物不足がますますひどくなり、野の獣も食物が無い状況です。

神様が、イスラエルの民を奴隷から解放しないエジプトに、同じようなことをされました。

★ 出エジプト記 9章 23節－25節

モーセが杖を天に向けて差し伸ばすと、主は雷と雹を送り、火が地に向かって走った。主はエジプトの国に雹を降らせた。雹が降り、雹のただ中を火がひらめき渡った。建国以来エジプトの国中どこにもそのようなことのなかった、きわめて激しいものであった。雹はエジプト全土にわたって、人をはじめ獣に至るまで、野にいるすべてのものを打ち、また野の草をみな打った。野の木もことごとく打ち砕いた。

イスラエルの民を解放しない、エジプト全土に、建国以来あり得なかった災難が起こっています。

悪が広がる終末に、人々を罪の奴隷から解放させるために、再び神様が立ち上がっています。

★ 黙示録 8章 8節－9節

第二の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、火の燃えている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして海の三分の一が血となった。すると、海の中にいた、いのちのあるものの三分の一が死に、舟の三分の一も打ちこわされた。

8節「火の燃えている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。」

これは、大きな隕石いんせきではないかと思われます。

8節「海の三分の一が血となった。」

出エジプトで、ナイル川が血になったことを思われます。

9節「海の中にいた、いのちのあるものの三分の一が死に、」

海草や魚介類が少なくなり、食物不足は想像を絶するところに達することでしょう。

9節「舟の三分の一も打ちこわされた。」

船によって届くはずの多くの食物が、届かなくなっていることでしょう。

★ 黙示録 8章 10節－11節

第三の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、たいまつのように燃えている大きな星が天から落ちて来て、川々の三分の一とその水源に落ちた。この星の名は苦よもぎと呼ばれ、川の水の三分の一は苦よもぎのようになった。水が苦くなったので、その水のために多くの人が死んだ。

10 節「たいまつのように燃えている大きな星が天から落ちて来て、」

ここで言われる星は、ミサイルではないかと思われます。黙示録が書かれた時代にはそのようなものはありませんから、「たいまつのように燃えている大きな星」のように見えたと思われます。

11 節「この星の名は苦よもぎと呼ばれ、」

チェルノブイリの意味は、「苦よもぎ」です。チェルノブイリで起こった原発事故で、多くの人々が死にました。この出来事は、予告編のようなものであるとも考えられます。

11 節「川の水の三分の一は苦よもぎのようになった。水が苦くなったので、その水のために多くの人が死んだ。」

エレミヤ書 9 章 15 節に、「見よ。わたしは、この民に、苦よもぎを食べさせ、毒の水を飲ませる」と書かれていますから、これは神罰です。

★ 黙示録 8 章 12 節

第四の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれたので、三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、また夜も同様であった。

太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれたので、三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、また夜も同様であった。

地球を取り巻く大気に異常が起こり、天の光がはっきりと見えなくなった状態です。

太陽も月も不気味な暗さで、星もほとんど見えないという、人々に恐れを抱かせる状態だと考えられます。ルカの福音書 21 章 25 節で、「日と月と星には、前兆が現れ」と言われたのは、この時のことかもしれません。

★ 黙示録 8 章 13 節

また私は見た。一羽の鷲が中天を飛びながら、大声で言うのを聞いた。「わざわざ来る。わざわざ、わざわざ来る。地に住む人々に。あと三人の御使いがラッパを吹き鳴らそうとしている。」

わざわざ来る。わざわざ、わざわざ来る。地に住む人々に。あと三人の御使いがラッパを吹き鳴らそうとしている。

第一のわざわざは、第五のラッパです。

第二のわざわざは、第六のラッパです。

第三のわざわざは、第七のラッパである最後の 7 つの鉢の災難が全部入っています。これは大患難時代の後半のすべてです。



OMEGA MINISTRIES
OMEGA BIBLE STUDY